

## 今日のトピック インドの金融政策(2015年2月)

# 緊急利下げ後となる2月定例会合では据え置き

### ポイント1 政策金利を7.75%に据え置き

#### 市場予想通りの決定

- インド準備銀行(RBI)は3日、政策金利(レポ金利)を7.75%に据え置くことを決定しました。据え置きは大方の市場予想通りです。
- 声明文によると、1月15日の緊急利下げ以降、物価や政府の財政緊縮などの情勢に大きな変化がなかったことから、追加利下げは見送られました。

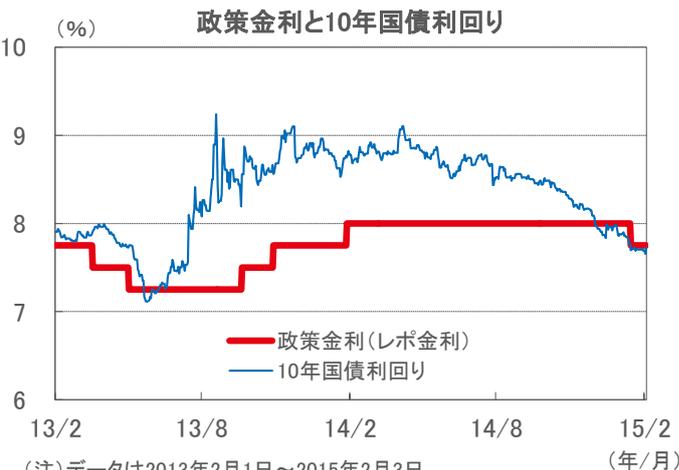
### ポイント2 物価上昇率は低下

#### 経済成長率の見通しは維持

- RBIは、物価上昇率が2016年1月の年+6%の目標に沿って推移すると見えています。一方、天候要因による食品価格の上昇や原油価格の再上昇が物価上昇のリスクであるとしました。
- 2014年度(2014年4月～15年3月)の経済成長率の見通しは+5.5%で維持されました。原油価格の下落が消費者の購買力を向上させ消費の上振れ要因となるものの、世界経済の下振れにより相殺されるとしています。



(注)データは2012年12月～2014年12月。物価目標はインド準備銀行による。  
(出所)Bloomberg L.P.、インド準備銀行のデータを基に  
三井住友アセットマネジメント作成



(注)データは2013年2月1日～2015年2月3日。  
(出所)Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

## 今後の展開 緩和的な金融環境は製造業の発展を後押し

- 原油価格の下落は、経常収支や財政収支の赤字を縮小させる要因です。また、輸送費や材料費を低下させることから、企業収益の拡大にも寄与し、全体として景気のプラス要因です。
- 物価上昇率の低下などを確認しながらRBIは年内に数回の利下げを実施するとの見方が市場で強まっています。緩和的な金融環境は投資や消費の拡大を促し、製造業の発展を目指す

- 「モディノミクス」を後押ししそうです。
- ルピーは、日銀による強力な金融緩和により、昨年10月後半以降対円で上昇基調にあります。年内に数回の利下げが見込まれるものの、経常収支の赤字が縮小傾向にあることや日銀の強力な金融緩和が続くと見られることから、ルピーは対円で底堅い推移が見込まれます。

### ここも チェック!

2015年02月03日 ラジャン総裁の金融政策(インド)  
2015年01月20日 最近の指標から見るインド経済(2015年1月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。